

# 2023年3月期 第2四半期 決算説明会資料

2022年11月17日

京阪ホールディングス株式会社

(東証プライム市場 9045 <https://www.keihan-holdings.co.jp/>)

◆連結決算実績・業績予想サマリー	…	2
◆「今後の事業の方向性」に基づく施策の進捗状況	…	9
◆長期経営戦略の進捗状況	…	15
◆2023年3月期 第2四半期 決算の概要	…	19
◆2023年3月期 業績予想	…	31

◆見通しに関する注意事項◆

業績予想及び将来の予測等に関する記述は、当社が現時点において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る現時点における仮定を前提としています。

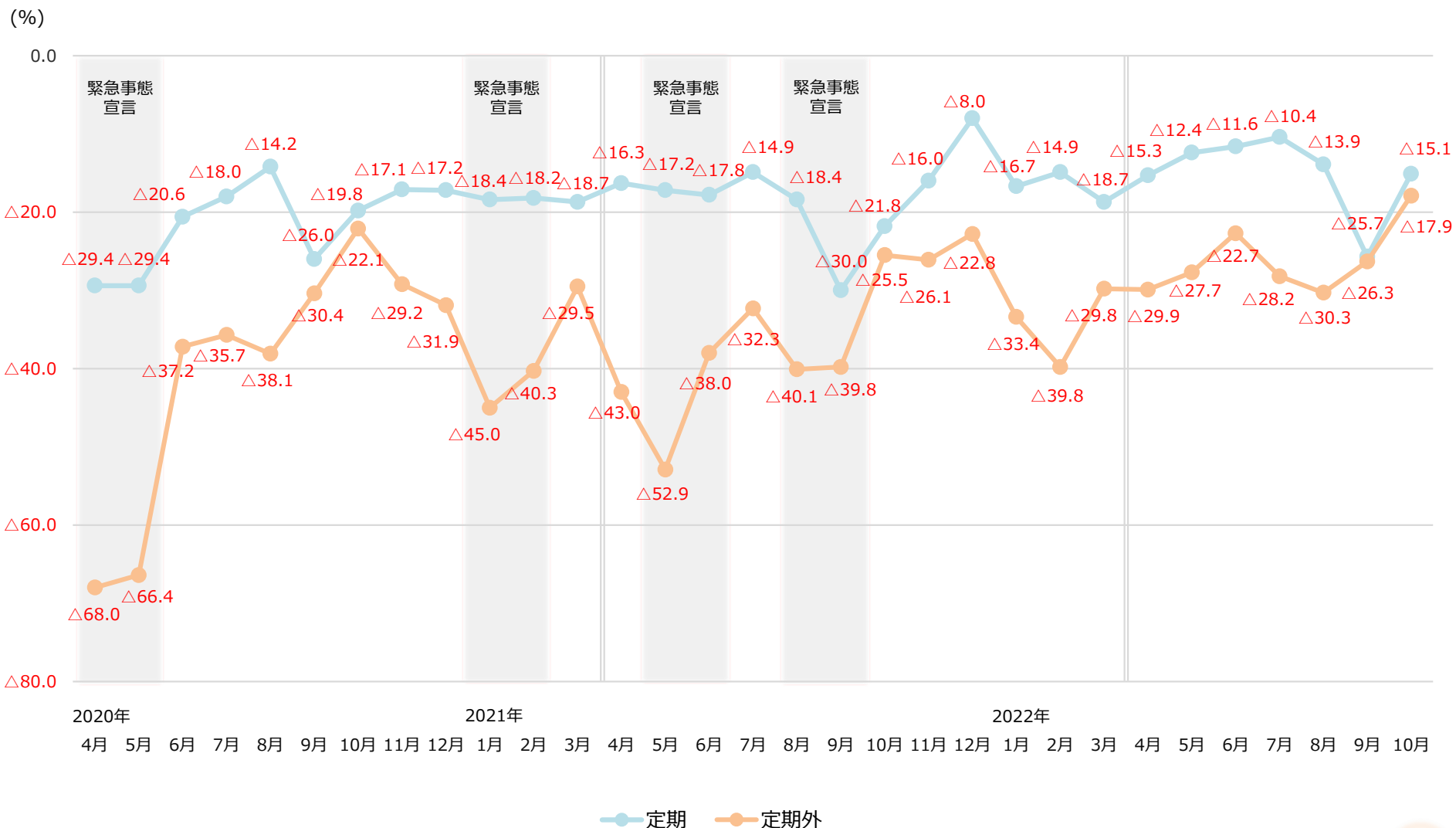
実際の業績は、今後の様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

# 連結決算実績・業績予想サマリー

- 不動産業で前年同期の開発案件販売の反動があったものの、緊急事態宣言発出の影響を受けた前年同期と比べ、運輸業やレジャー・サービス業において一定の回復が見られたことなどにより、増収となり、営業利益、経常利益も増益。さらに、固定資産売却益の増加もあり、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期を大きく上回った。

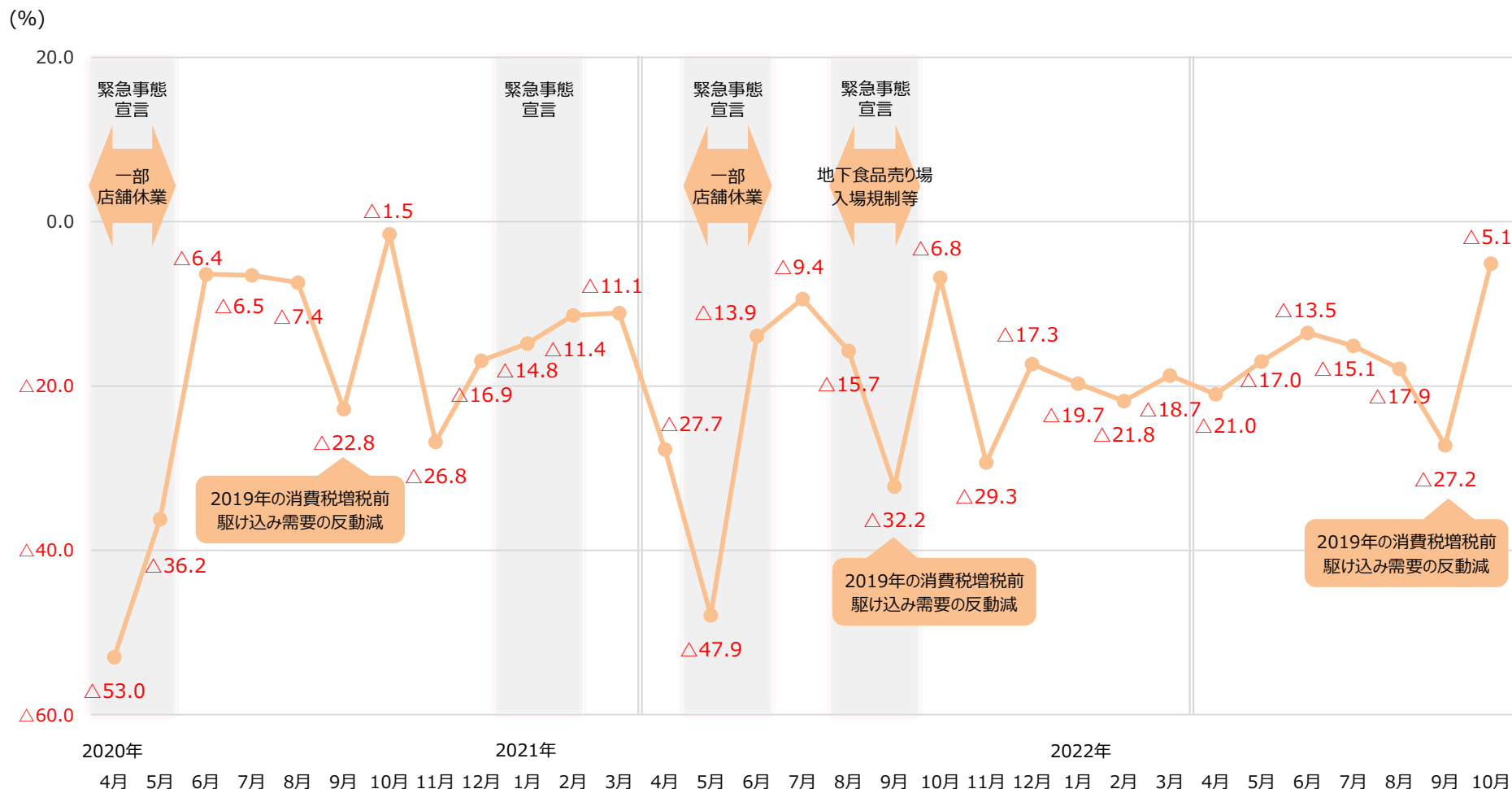
	2023/3 2Q実績	2022/3 2Q実績	増減額	増減率	備考
営業収益	1,231億円	1,185億円	45億円	3.9%	
営業利益	101億円	27億円	73億円	264.2%	
経常利益	105億円	37億円	68億円	182.7%	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	105億円	19億円	85億円	438.6%	固定資産売却益 前年同期比+45億円

## 鉄道事業（京阪電気鉄道） 旅客数対2019年比



# 主な事業の状況（2）

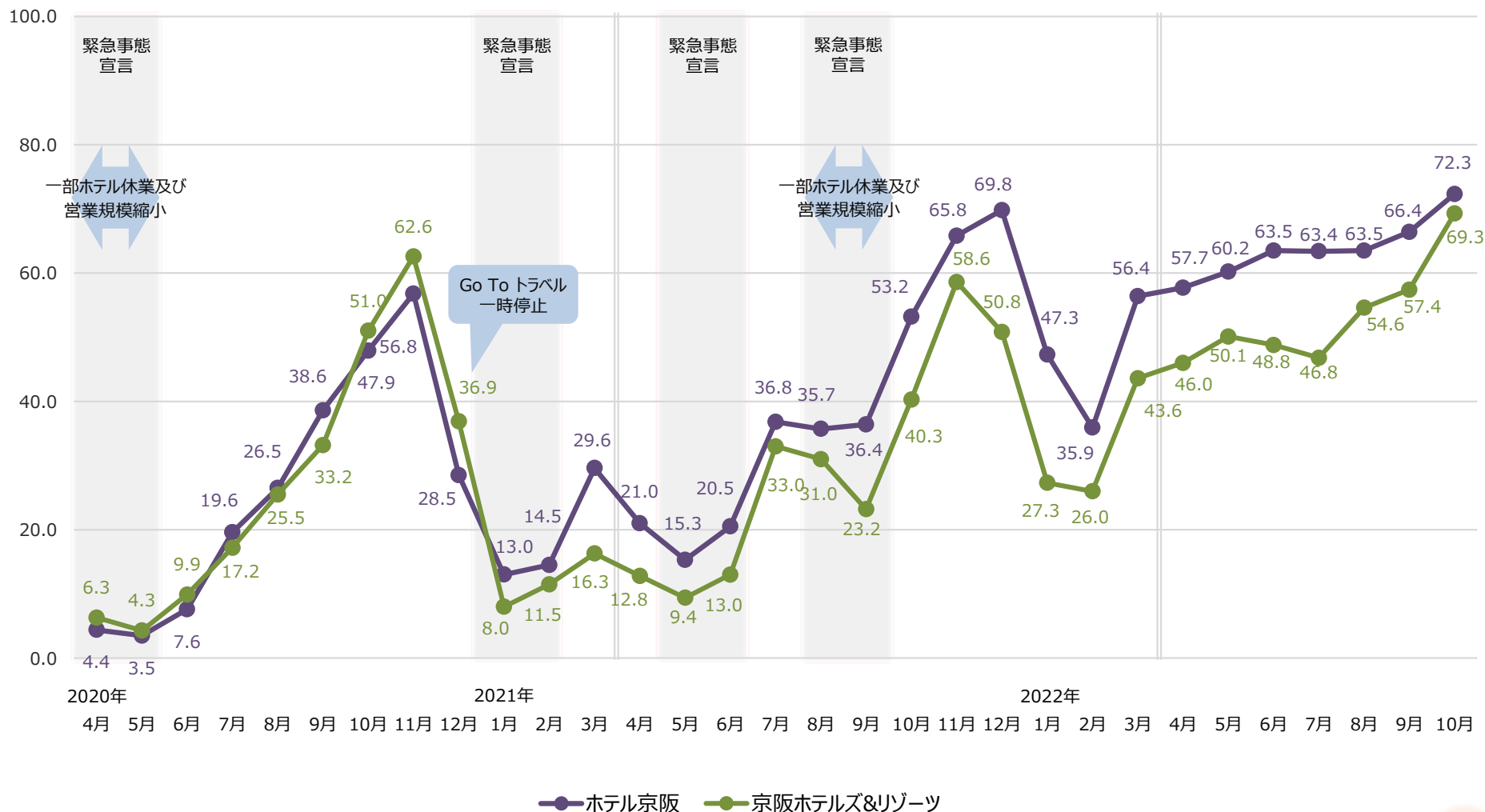
## 百貨店業（京阪百貨店） 営業収益 対2019年比



# 主な事業の状況（3）

## ホテル事業 客室稼働率

(%)



## 収入の見通し（全事業共通）

- 国内の経済活動は、新型コロナウイルス感染症の影響が一定残るものの、消費マインドの改善や、感染状況に応じた外出自粛ムードの緩和等により、緩やかに回復。
- 感染症拡大に伴う緊急事態宣言の発令や休業要請、大規模な外出制限は行われない。
- インバウンド需要は、下期より緩やかに回復するものの、本格的な回復には至らない。

## 収入の見通し（各事業）

			2023/3 今回発表予想	2023/3 5月発表予想
収入の見通し (通年)	京阪電気鉄道	定期外収入 定期収入	対平年度 $\Delta 22\%$ 程度 " $\Delta 15\%$ 程度	対平年度 $\Delta 20\%$ 程度 " $\Delta 17\%$ 程度
	バス事業	一般路線収入	" $\Delta 12\%$ 程度	" $\Delta 13\%$ 程度
	百貨店業	売上高 (※)	" $\Delta 15\%$ 程度	" $\Delta 15\%$ 程度
ホテルの客室 稼働率(通年)	ホテル京阪		75% 程度	75% 程度
	京阪ホテルズ & リゾート		55% 程度	55% 程度

(※) …「収益認識に関する会計基準」適用前の売上高



- 流通業等において新型コロナウイルス感染症再拡大の影響を受けたことから減収となるものの、不動産業が堅調に推移していることに加え、運輸業等におけるコストの見直しを見込むほか、雇用調整助成金や各種補助金、固定資産売却にかかる利益の増加などにより、各段階の利益は当初の予想を上回る見込み。

	2023/3 今回発表予想	2023/3 5月発表予想	増減額	増減率
営業収益	2,546億円	2,550億円	△4億円	△0.2%
営業利益	172億円	165億円	7億円	4.2%
経常利益	170億円	155億円	15億円	9.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	160億円	120億円	40億円	33.3%
年間配当金	1株当たり 30円	1株当たり 25円	当期業績及び財政状態等を総合的に勘案した結果、前回予想の1株当たり25円から5円増配	

# 「今後の事業の方向性」に基づく 施策の進捗状況

- ライフスタイルが大きく変化している現状を踏まえ、「**安全安心**」「**構造改革**」「**BIOSTYLE**」を当社グループが取り組む**今後の事業の方向性**とする
- 長期経営戦略に掲げる主軸戦略と合わせて、当該方向性に基づく施策を遂行し、**経営基盤の立て直しを図る**

## ライフスタイルの中長期的変化

### 健康・予防

を意識した行動の定着

### 新しい働き方・暮らし方

(テレワーク等)の浸透

### 環境問題・社会問題

への意識の高まり



## 今後の事業の方向性

**安全安心**

**構造改革**

**BIOSTYLE**

※ ビオスタイル BIOSTYLE…“京阪版SDGs”として当社グループが推進する「毎日の生活の中に、楽しく、無理なく、取り入れていくことができる明るい循環型社会の実現を目指す」取り組み

## 安全安心

感染症や災害等により不安にさらされる状況においても、  
安心してご利用いただける商品・サービスを提供

### 鉄道駅バリアフリー料金制度 導入

・「鉄道駅バリアフリー料金制度」を活用し、バリアフリー設備の整備を加速

徴収計画	
収受開始予定日	2023年4月1日
徴収期間	3年間 ※
年間徴収額(見込)	1,500百万円
総徴収額(見込)	4,500百万円

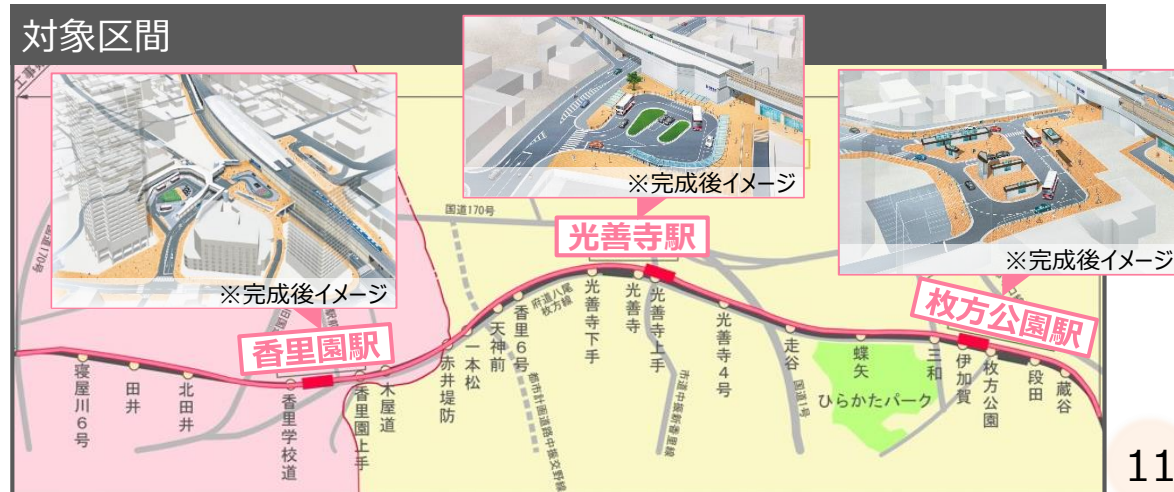
※3年経過後の継続について検討予定

整備計画	
主な整備内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームドア設置（4駅8番線）</li> <li>テレビ電話機能付きインターホン（京阪線全駅）</li> <li>駅放送システム更新</li> </ul>
総整備費(見込)	5,995百万円

### 京阪本線（寝屋川市・枚方市）連続立体交差事業 鉄道工事着手

- ・鉄道工事着手に伴い、2022年9月に起工式を挙行
- ・踏切除去を通じて、交通渋滞や踏切事故の解消、地域分断の解消を進め、市街地の一体化を図り、地域の発展に貢献

事業延長	約 5.5km
踏切除去数	21箇所
高架化対象駅	3駅



## 構造改革

既存事業の需要の変化に対応した体制を確立するとともに、新しい生活様式に対応する商品・サービスを展開

### 京阪百貨店における構造改革の取り組み

- 2022年5月、「“知る人ぞ知る”を知る面白さ」をコンセプトとするECモール「よろずを継ぐもの」をオープンし、百貨店のバイヤー厳選の商品等を続々発信・販売

#### ショップ紹介



#### 「島の幸々」

バイヤー厳選の離島の味覚を取り揃えた食品専門店



#### 「傘もよう」

多彩な傘の数々から「お気に入りの傘」をお選びいただけるこだわりの傘専門店

- 2022年9月、京阪百貨店守口店に“冷凍技術の進化で変わる食と暮らし”をテーマとする自営のフード&ライフセレクトショップ「5.0°F (ゴエフ)」をオープンし、自主編集売場を強化

#### ショップ紹介

#### 「5.0°F」

- オリジナル冷凍食品、産直冷凍食材、調理器具や保存容器等を販売
- 売場内のキッチンカウンターでは、プロの料理人によるライブキッチン等を開催



#### ECモール

「よろずを継ぐもの」にも出店

### 京阪ザ・ストアにおける構造改革の取り組み

- 駅ナカコンビニ「アンスリー」を高品質かつ独自性の高い“食”を提供する新業態 食の商店「もより市」へ順次転換し、駅ナカに求められる役割の変化に対応
- 2022年8月に「もより市 香里園駅」、10月に「もより市 寝屋川市駅」、12月に「もより市 樟葉駅」をオープン



もより市 香里園駅



もより市 寝屋川市駅

#### 商品紹介

“自社製惣菜”“大起水産の寿司”“自社パン”などの品質にこだわった“食”に加え、京阪沿線で人気のお店から隠れた銘店まで多数の魅力ある商品を集結させた「レールグルメ～京阪沿線地場商材～」を駅で提供



- 直営スーパー「フレスト」の厨房にて当日製造した**自社製弁当**を販売



- 枚方の銘店 九十九堂本舗のクリームパンなど、「レールグルメ」も多数集結

## BIOSTYLE

人々の暮らしの価値を高めると同時に**社会課題の解決に資する商品・サービス**を展開

### THE THOUSAND KYOTOの取り組み

- ・ホテル事業では、個人の快適さだけでなく、自然や文化、社会にも良い**サステナビリティ**を追求した**体験価値**の提供を通じて、ブランド向上・競争力強化を図る
- ・「THE THOUSAND KYOTO」では、千年の都・京都を訪れたお客様とともに次の千年を考える取り組みとして、1年間で**100のSDGsアクション**を実施



Action① ホテル屋上における都市養蜂で採取したはちみつを販売



Action② 規格外の玉ねぎを使った食品ロス削減メニューの開発



Action③ ホテルを使用済ステンレス製ボトルの回収拠点に



THE THOUSAND KYOTO

### GOOD NATURE STATIONの取り組み

- ・2022年5月、体、心、地域、社会、地球に良い食品の新ブランド「**GOOD NATURE MARKET**」を立ち上げ
- ・通常廃棄される素材（カカオ豆の皮等）を活用した新商品の開発、販売チャネルの拡大、ブランドプロモーション等を通じて、**認知度向上・売上拡大**を図る

#### 商品紹介

- ・CACAO CURRYやカカオ生コーラ、各種調味料等を販売
- ・龍谷大学と連携して開発した新商品「**アラビアン ナッツ&スパイス**」を2022年10月に発売



- ・館内のサステナブルな取り組みを体験・体感できる「**SDGsツアー**」について、従来、旅行代理店経由での団体予約のみ受け付けていたが、2022年9月より**一般予約の受付を開始**

#### SDGsツアー

- ・オリジナルコスメ「**NEMOHAMO**」等の自社ブランド商品が制作されるまでの裏話から、普段は入場することのできない非公開エリアの見学まで、同ツアーならではの視点やコンテンツを用いてご案内



## 2022年度以降の主なマンション分譲

物件名・所在地		戸数
2022年度引渡予定		
ファインレジデンス神戸新長田	神戸市	80※
ファインレジデンス枚方香里園町	枚方市	130※
ザ・ファインタワーウェストコースト	大阪市	199※
ファインレジデンス福島野田	大阪市	112※
プランズタワー札幌大通公園	札幌市	179※
2023年度引渡予定		
ザ・ファインタワー 大阪肥後橋	大阪市	197
ザ・ファインタワー久屋大通	名古屋市	163※
ザ・ファインタワー浦添城間	浦添市	90※
ホテルコンドVIVOVIVA石垣島	石垣市	98※
2024年度引渡予定		
さいたま市北区盆栽町プロジェクト	さいたま市	158※
高崎市鞆町プロジェクト	高崎市	70※
那覇市北谷プロジェクト	那覇市	221※

※共同事業、戸数は総戸数、  
表示物件の戸数、計上時期は変更となる可能性あり

## 不動産販売業におけるアセットタイプ<sup>o</sup>の拡充

### ホテルコンドVIVOVIVA石垣島

- 石垣島初の新築分譲ホテルコンドミニウム
- 引渡予定時期 2024年2月下旬

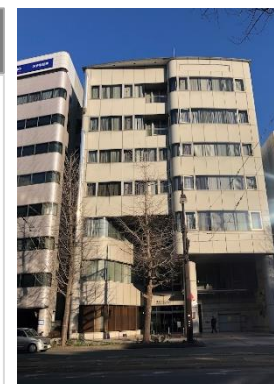


※完成後イメージ

## 不動産賃貸業への投資拡大

### 熊本テクノプラザ

- 取得日  
2022年9月30日
- 所在地  
熊本県熊本市
- 建物規模  
地上7階、地下1階



# 長期経営戦略の進捗状況



## 沿線再耕

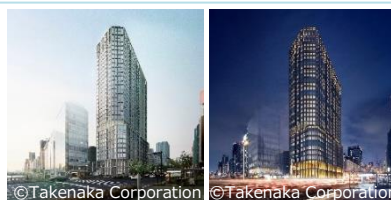
当社グループにとって沿線価値向上は経営の原点であるため、**枚方市、中之島、淀屋橋**を中心に、ライフスタイルの変化に応じた拠点開発を引き続き推進する

### 淀屋橋 ～京阪御堂筋ビルおよび日土地淀屋橋ビルの共同建替 2022年7月 新築工事着工～

#### 事業の特徴

1. 御堂筋の玄関口に、大阪の国際競争力と魅力の向上に資するまちづくり

・統一感ある景観の形成、夜間の印象的なライトアップ等により、上質な賑わいのある街並みを創出



2. サステナブル建築物等先導事業（省CO2先導型）に採択、機能性と快適性を両立させた高規格オフィス

・調光制御、排熱利用等を通じて、省エネルギー化を実現。吹き抜け空間等を活用した自然換気も実施



3. 上質な賑わいとビジネス活動を支援する3つの都市貢献スペース

・立体多目的広場、コワーキングスペースを備えたビジネスラウンジ、一般来館者も利用可能な展望テラスを整備

4. 周辺地区における歩行者空間の改善と防災性の向上

・地下1階に接続する淀屋橋駅の地下通路もリニューアル。また、建物内には、一時退避場所や防災備蓄倉庫を整備

#### 事業概要

敷地面積	約3,940㎡
規模	地下3階 地上31階
高さ	約150m
延床面積	約72,850㎡
開業予定時期	2025年夏

#### 用途構成

30階	商業・展望テラス
12～29階	事務所
10～11階	ビジネスラウンジ
4～8階	事務所
地下2～2階	商業

### 中之島 ～中之島4丁目未来医療国際拠点整備事業～

2021年11月 新築建物着工  
2023年度 竣工予定



延床面積	約57,000㎡
規模	地上17階

### 枚方市 ～枚方市駅周辺地区第一種市街地再開発事業～

2024年度 当社グループが区分所有する第3工区の建物竣工予定

第3工区	延床面積	約94,000㎡
	規模	高層棟地上26階建 低層棟地上10階建 住宅棟地上29階建



## 観光共創

ウィズコロナ・アフターコロナの社会における観光のあり方を見極め、足元の需要を確実に取り込むとともに、回復期に向けた準備を進める

## 観光需要の本格回復を見据えた取り組み

・「京都駅～東山エリア」「伏見エリア」「比叡山・びわ湖周辺エリア」等において、地域との連携を強化し、各エリアへの誘客促進や、観光サービスの高付加価値化に向けた取り組みを推進

### 京都駅～東山エリア

#### 施設改装・設備改修等

##### 【コンセプト】

- ・京都市立芸術大学の京都駅東南部への移転を機に、**アート・伝統工芸**等をテーマとする周遊促進
- ・SDGsに寄与する宿泊施設・滞在空間の整備

##### 【対象施設・事業】※

- ・京都駅周辺ホテル
- ・アプリ活用による周遊促進 他

### 伏見エリア

#### イベント・観光ツアーの開催

- ・伏見酒造組合と連携し、10月15日より「**酒粕グルメさんぽ**」を開催
- ・ラグジュアリー層向けツアーを商品化⇒酒蔵の街としての**ブランディング**と**来訪・周遊促進**を図る



### 比叡山・びわ湖周辺エリア

#### 施設改装・設備改修等

##### 【コンセプト】

- ・**眺望・景観・自然体験**を活かした周遊促進

##### 【対象施設】※

- ・琵琶湖ホテル
- ・鉄道・ケーブル駅施設 他

#### 比叡山・びわ湖DMOの設立

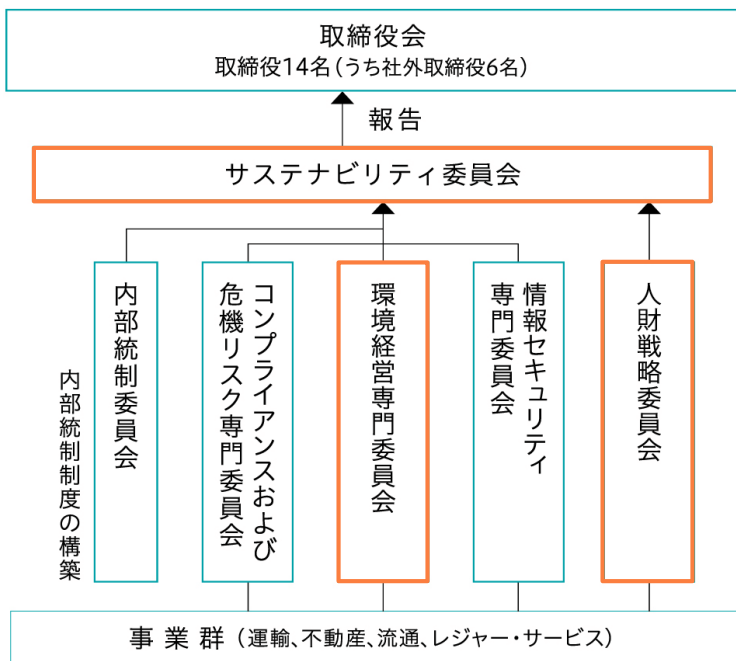
- ・比叡山を中心に山麓へと広がる比叡山・びわ湖エリアへの誘客促進や受入環境整備に向け、**2022年5月「一般社団法人 比叡山・びわ湖DMO」**を設立（登録申請中）

※一部、補助金を活用して実施

## ■ サステナビリティ推進体制が本格始動

- ・取締役会の下に、京阪グループのESG推進と進捗管理を行う「**サステナビリティ委員会**」を2022年7月に設置
- ・「サステナビリティ委員会」の下部組織として、環境課題対応を推進する「**環境経営専門委員会**」、多様な人的資本による価値創造を推進する「**人財戦略委員会**」を設置

### サステナビリティ推進体制



## ■ 食品ロスの削減

- ・スーパーマーケット「フレスト松井山手店」「フレスト長尾店」にて**フードドライブ**（食品の寄付活動）の取り組みを継続実施
- ・琵琶湖汽船では、2022年9月より、大津市内の子ども支援団体へ**船内レストランの料理を再提供**する取り組みを開始



## ■ 地域社会とのコミュニケーションの強化

- ・10月16日、京阪電車寝屋川車両基地にて、京阪グループのお客さま感謝イベント「**ファミリーレールフェア**」を3年ぶりに開催

当日の様子



2023年3月期 第2四半期

# 決算の概要

# 連結損益計算書

- 不動産業で前年同期の開発案件販売の反動があったものの、緊急事態宣言発出の影響を受けた前年同期と比べ、運輸業やレジャー・サービス業において一定の回復が見られたことなどにより、増収となり、営業利益、経常利益も増益。さらに、固定資産売却益の増加もあり、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期を大きく上回りました。

(単位：百万円)

	2023/3 2Q実績	2022/3 2Q実績	増減	増減要因	2023/3 8月発表2Q予想	増減
営業収益	123,143	118,564	4,579 (3.9%)		118,500	4,643 (3.9%)
営業利益	10,174	2,793	7,381 (264.2%)		7,900	2,274 (28.8%)
営業外収益	1,553	2,426	△873	雇用調整助成金△723		
営業外費用	1,188	1,492	△303			
経常利益	10,539	3,727	6,811 (182.7%)		8,000	2,539 (31.7%)
特別利益	5,137	1,748	3,388	固定資産売却益+4,571 投資有価証券売却益△1,000		
特別損失	728	466	261			
親会社株主に帰属する 四半期純利益	10,506	1,950	8,555 (438.6%)		8,600	1,906 (22.2%)
減価償却費	9,966	10,297	△330			
E B I T D A	20,141	13,090	7,050	※EBITDA：営業利益+減価償却費		
受取利息及び配当金	295	241	53			
支払利息	961	1,030	△69			
金融収支	△666	△789	123			

(単位：百万円)

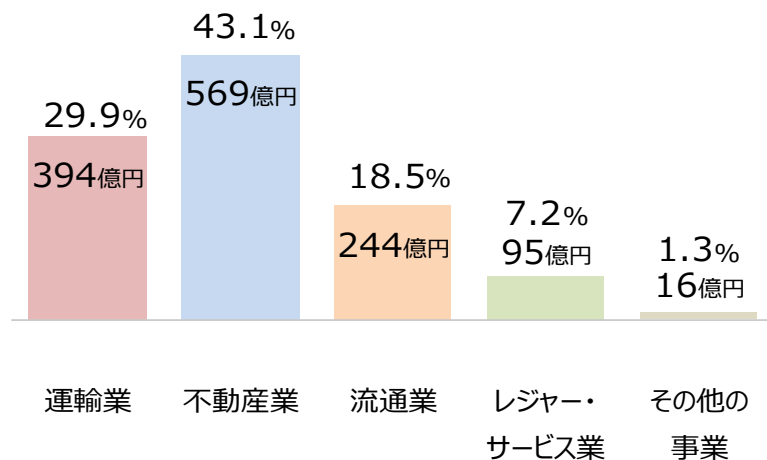
		2023/3 2Q実績	2022/3 2Q実績	増減額	増減率
運 輸 業	営 業 収 益	39,448	33,157	6,290	19.0%
	営 業 利 益	3,452	△1,991	5,444	—
不 動 産 業	営 業 収 益	56,951	62,652	△5,700	△9.1%
	営 業 利 益	9,641	10,400	△759	△7.3%
流 通 業	営 業 収 益	24,446	25,893	△1,446	△5.6%
	営 業 利 益	647	414	232	56.1%
レシ「ャー・サービ「ス業	営 業 収 益	9,509	4,194	5,315	126.7%
	営 業 利 益	△2,734	△5,437	2,703	—
そ の 他 の 事 業	営 業 収 益	1,660	1,416	243	17.2%
	営 業 利 益	△638	△757	118	—
全 社 ・ 消 去	営 業 収 益	△8,872	△8,750	△122	—
	営 業 利 益	△193	164	△358	—

# セグメント情報（構成）

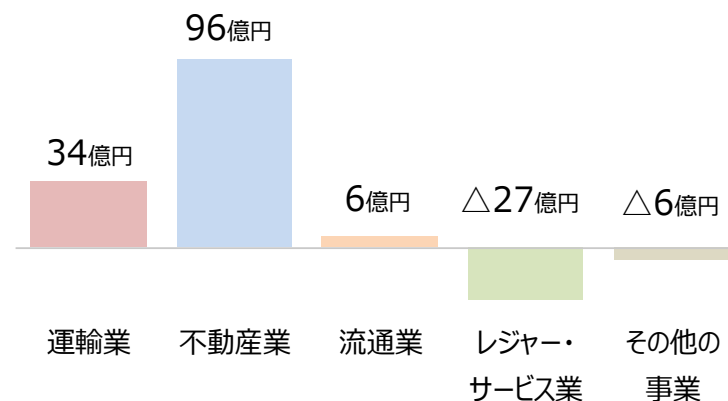
【連結対象会社】39社（対前年同期 2社減）【持分法適用会社】2社（対前年同期 増減なし）

運 輸 業	京阪電気鉄道、京福電気鉄道、京阪バス 他12社
不 動 産 業	京阪ホールディングス、京阪電鉄不動産、ゼロ・コーポレーション、京阪建物 他6社
流 通 業	京阪百貨店、京阪ザ・ストア、京阪流通システムズ、ビオ・マーケット
レジャー・サービス業	ホテル京阪、京阪ホテルズ&リゾート、琵琶湖汽船 他5社
その他の事業	ビオスタイル、京阪カード

## <セグメント別営業収益>

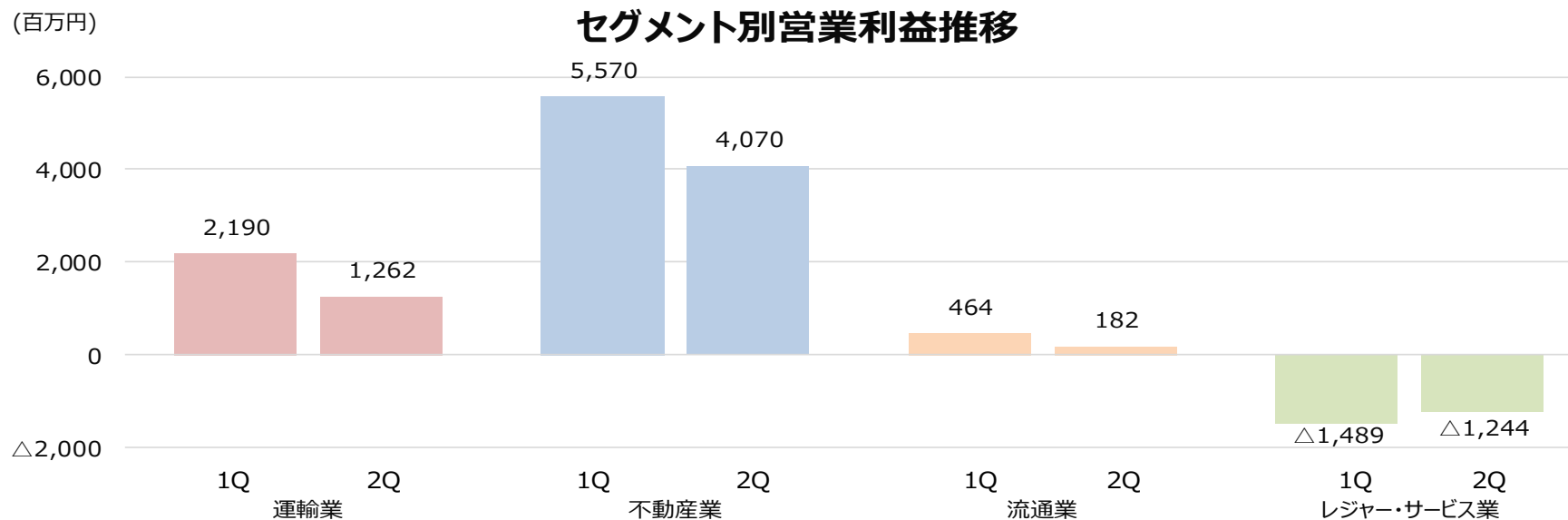
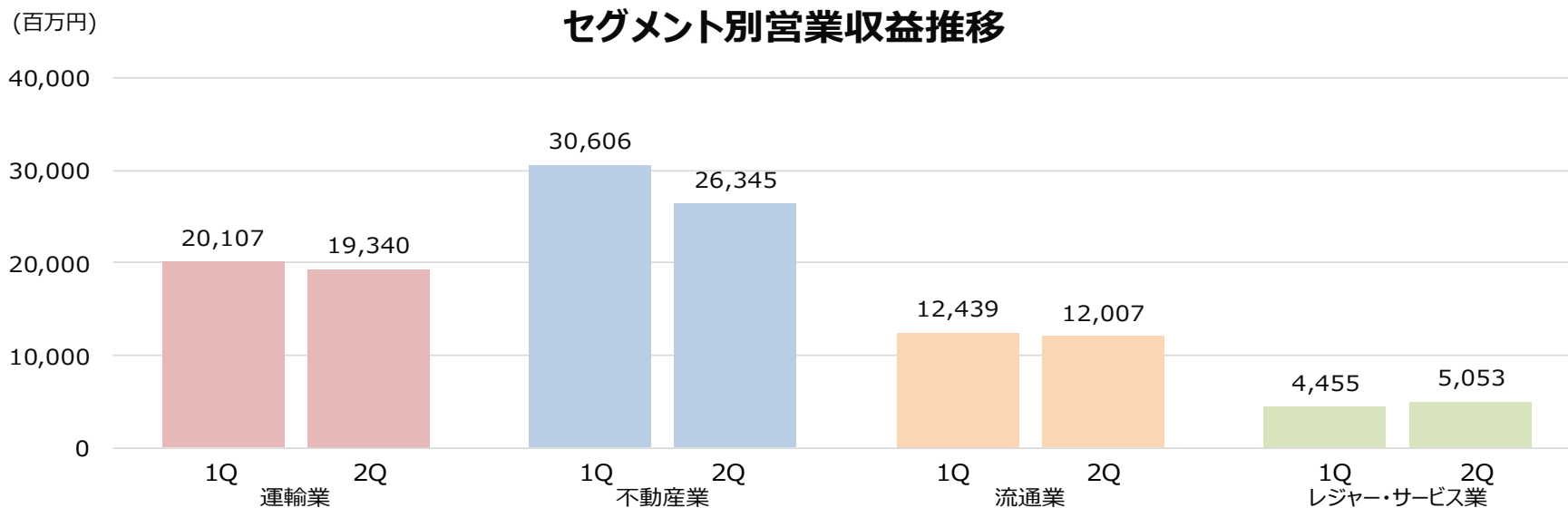


## <セグメント別営業利益>



(注)セグメント数値は、セグメント間取引消去を含む金額であります。％は各セグメントの構成比を表しております。

# セグメント情報（四半期推移）





# セグメント情報（運輸業）

(単位：百万円)

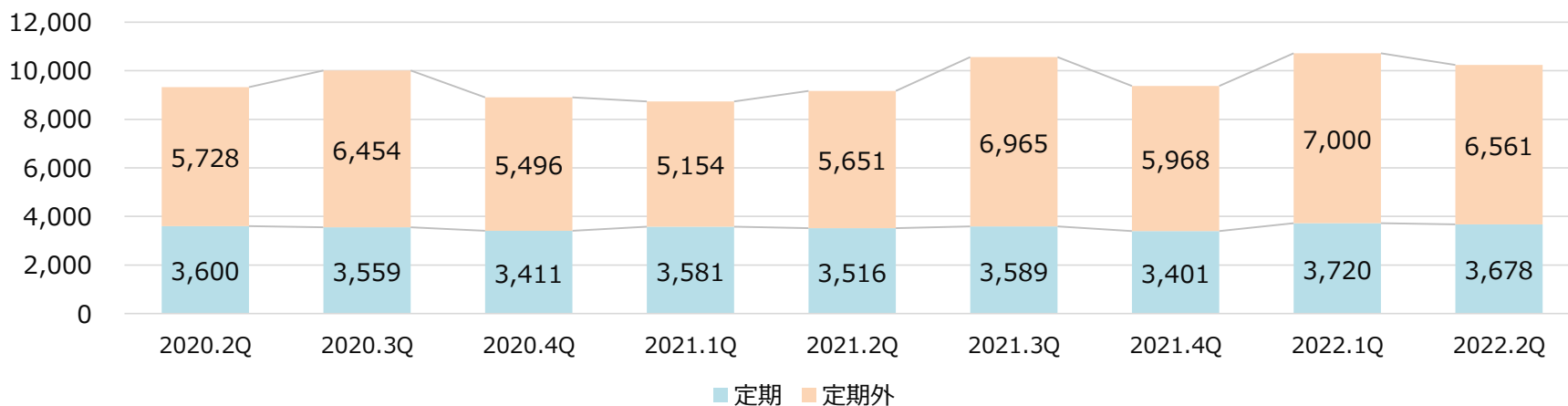
	2023/3 2Q実績	2022/3 2Q実績	増減額	増減率
営業収益	39,448	33,157	6,290	19.0%
鉄道事業	32,024	27,319	4,705	17.2%
バス事業	11,111	9,429	1,681	17.8%
消去	△3,687	△3,591	△96	—
営業利益	3,452	△1,991	5,444	—
鉄道事業	2,805	△1,358	4,164	—
バス事業	643	△634	1,277	—
消去	3	1	2	—

## （主な増減要因）

- 鉄道事業は、緊急事態宣言が発出された前年同期と比較して輸送人員が増加したことなどにより、増収・増益。
- バス事業は、緊急事態宣言が発出された前年同期と比較して乗合収入が増加したことなどにより、増収・増益。

		2023/3 2Q実績	2022/3 2Q実績	増減	増減率
		百万円	百万円	百万円	%
旅 客 収 入		20,960	17,903	3,057	17.1
	定 期 外	13,561	10,805	2,756	25.5
	定 期	7,398	7,097	301	4.2
		千人	千人	千人	%
旅 客 数		120,297	106,689	13,607	12.8
	定 期 外	55,108	44,788	10,319	23.0
	定 期	65,188	61,900	3,288	5.3

## 旅客収入の推移（百万円）



# セグメント情報（不動産業）

（単位：百万円）

		2023/3 2Q実績	2022/3 2Q実績	増減額	増減率						
営	業	収	益	56,951	62,652	△5,700	△9.1%				
	不	動	産	事	業	48,087	55,391	△7,303	△13.2%		
		不	動	産	販	売	業	32,114	40,704	△8,589	△21.1%
		不	動	産	賃	貸	業	13,773	12,817	955	7.5%
		そ	の	他		2,199	1,869	330	17.7%		
	建	設	事	業		12,275	10,978	1,296	11.8%		
	消			去		△3,412	△3,717	305	—		
営	業	利	益	9,641	10,400	△759	△7.3%				
	不	動	産	事	業	9,739	11,344	△1,605	△14.1%		
		不	動	産	販	売	業	2,979	5,263	△2,284	△43.4%
		不	動	産	賃	貸	業	6,508	5,873	634	10.8%
		そ	の	他		252	207	44	21.6%		
	建	設	事	業		△3	△52	49	—		
	消			去		△95	△891	796	—		

## （主な増減要因）

- 不動産販売業は、「ファインレジデンス新百合ヶ丘」や「ザ・ファインタワー大手前」などマンション販売の増加はあるものの、前年同期の開発案件販売の反動が大きく、減収・減益。
- 不動産賃貸業は、不動産ファンド収入の増加などにより、増収・増益。

# セグメント情報（流通業）

（単位：百万円）

	2023/3 2Q実績	2022/3 2Q実績	増減額	増減率
営業収益	24,446	25,893	△1,446	△5.6%
百貨店業	9,300	9,200	99	1.1%
ストア業	7,388	8,724	△1,335	△15.3%
ショッピングモールの経営	6,281	5,820	460	7.9%
その他	2,139	2,849	△709	△24.9%
消去	△663	△702	39	－
営業利益	647	414	232	56.1%
百貨店業	△296	△363	66	－
ストア業	219	339	△119	△35.3%
ショッピングモールの経営	637	436	200	46.0%
その他	79	△19	99	－
消去	7	21	△13	－

## （主な増減要因）

- 百貨店業やショッピングモールの経営は、緊急事態宣言が発出された前年同期の休業や時短営業の影響の反動により、増収・増益。
- ストア業は、前年同期の新型コロナウイルスの影響の反動はあるものの、京阪本線（寝屋川市・枚方市）連続立体交差事業に伴い前年12月に閉店したフレスト香里園店の影響などにより、減収・減益。

# セグメント情報（レジャー・サービス業）

（単位：百万円）

	2023/3 2Q実績	2022/3 2Q実績	増減額	増減率
営業収益	9,509	4,194	5,315	126.7%
ホテル事業	8,068	3,254	4,814	147.9%
レジャー事業	1,454	951	503	52.9%
消去	△13	△11	△2	—
営業利益	△2,734	△5,437	2,703	—
ホテル事業	△2,747	△5,173	2,425	—
レジャー事業	4	△273	277	—
消去	9	9	0	—

## ホテル稼働率

	2023/3 2Q実績	2022/3 2Q実績	増減
ホテル京阪	63.3%	27.9%	35.4pt
京阪ホテルズ & リゾーツ	50.6%	20.5%	30.1pt

（主な増減要因）

- ホテル事業は、緊急事態宣言が発出された前年同期の休業や営業規模縮小の影響の反動などにより、増収・増益。
- レジャー事業は、緊急事態宣言が発出された前年同期の営業規模縮小の影響の反動などにより、増収・増益。

# 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2023/3 2Q実績	2022/3 実績	増減額	増減要因
流動資産	193,811	186,794	7,016	販売土地及び建物+15,478、 現金及び預金△6,479
固定資産	550,305	550,466	△161	建物及び構築物△3,227、 機械装置及び運搬具△1,393、 投資有価証券+3,573
資産合計	744,117	737,261	6,855	
流動負債	148,184	127,477	20,706	1年内償還予定の社債+20,000
固定負債	330,232	353,907	△23,674	社債△20,000、 長期借入金△3,471
負債合計	478,416	481,384	△2,968	
純資産	265,700	255,876	9,824	利益剰余金+7,872 ※自己資本比率35.0% (+0.9pt)
負債純資産合計	744,117	737,261	6,855	
有利子負債	345,644	345,311	333	短期社債+3,000、借入金△2,666

# 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2023/3 2Q実績	2022/3 2Q実績	増減額	増減要因
営業活動によるキャッシュ・フロー	903	339	564	その他流動負債の増加+12,956、税金等調整前四半期純利益+9,938、棚卸資産の増加△19,956
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,792	△8,456	3,664	固定資産の売却による収入+6,923、固定資産の取得による支出△1,674、投資有価証券の売却による収入△1,235
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,886	2,329	△5,215	長期借入れによる収入△20,310、短期借入金+11,046
現金及び現金同等物の増減額	△6,548	△5,788	△760	
現金及び現金同等物の期首残高	20,322	26,554	△6,232	
現金及び現金同等物の期末残高	13,790	20,766	△6,975	

2023年3月期  
業績予想



# 連結損益計算書（業績予想）

- 流通業等において新型コロナウイルス感染症再拡大の影響を受けたことから減収となるものの、不動産業が堅調に推移していることに加え、運輸業等におけるコストの見直しを見込むほか、雇用調整助成金や各種補助金、固定資産売却にかかる利益の増加などにより、各段階の利益は当初の予想を上回る見込み。

（単位：百万円）

	2023/3 今回発表予想	2023/3 5月発表予想	増減額	増減率	2022/3 通期実績	増減額	増減率
営業収益	254,600	255,000	△400	△0.2%	258,118	△3,518	△1.4%
営業利益	17,200	16,500	700	4.2%	13,408	3,791	28.3%
経常利益	17,000	15,500	1,500	9.7%	16,485	514	3.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	16,000	12,000	4,000	33.3%	9,589	6,410	66.8%
設備投資額	36,900	38,800	△1,900	△4.9%	17,193	19,706	114.6%
減価償却費	20,200	20,500	△300	△1.5%	20,922	△722	△3.5%
E B I T D A	37,400	37,000	400	1.1%	34,331	3,068	8.9%
有利子負債	355,000	367,000	△12,000	△3.3%	345,311	9,688	2.8%
有利子負債 E B I T D A倍率(倍)	9.49	9.92	△0.43	—	10.06	△0.57	—
ネット有利子負債 E B I T D A倍率(倍)	8.96	9.38	△0.42	—	9.47	△0.51	—
受取利息及び配当金	490	393	97	24.7%	464	26	5.7%
支払利息	1,836	1,888	△51	△2.7%	2,007	△171	△8.5%
金融収支	△1,345	△1,494	149	—	△1,542	197	—

# セグメント情報（業績予想）

（主な増減要因：対5月発表予想）

- 運輸業：新型コロナウイルス感染症再拡大の影響により、減収。コスト削減の取り組みなどにより、増益。
- 不動産業：不動産販売業の堅調な推移などにより、増収・増益。
- 流通業：新型コロナウイルス感染症再拡大の影響による各施設の回復の遅れなどにより、減収。コスト削減の取り組みなどにより利益は前回予想を据え置く。
- レジャー・サービス業：新型コロナウイルス感染症再拡大の影響はあるものの、足元では回復傾向にあることから前回予想を据え置く。

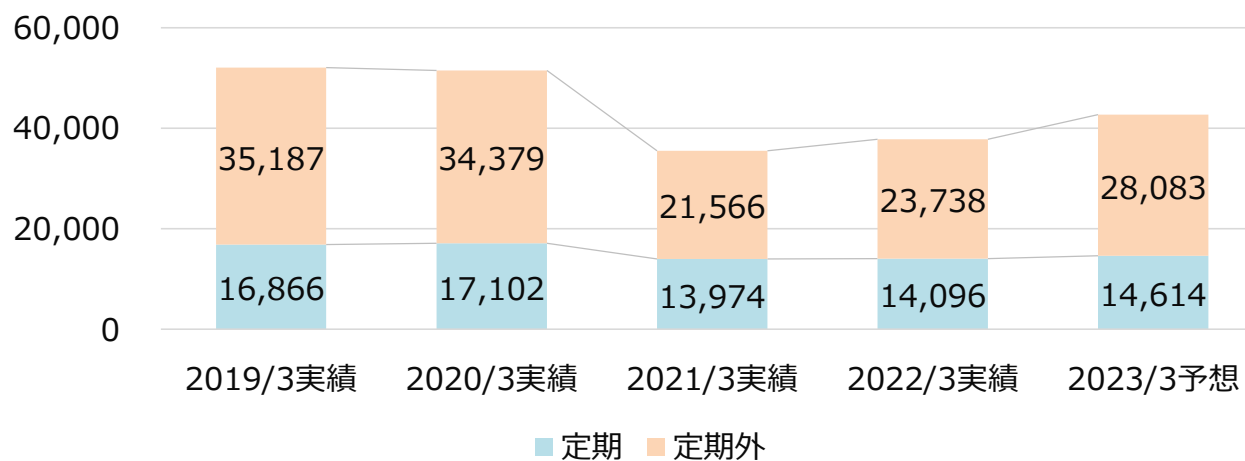
（単位：百万円）

		2023/3 今回発表予想	2023/3 5月発表予想	増減額	2022/3 通期実績	増減額
運 輸 業	営業収益	79,300	79,700	△400	70,768	8,531
	営業利益	4,800	4,600	200	173	4,626
不 動 産 業	営業収益	117,500	116,400	1,100	137,495	△19,995
	営業利益	17,000	15,800	1,200	22,593	△5,593
流 通 業	営業収益	51,300	52,900	△1,600	52,908	△1,608
	営業利益	2,400	2,400	-	1,776	623
レジャー・サービス業	営業収益	20,800	20,800	-	11,529	9,270
	営業利益	△4,600	△4,600	-	△9,324	4,724
その他の事業	営業収益	3,700	3,900	△200	3,169	530
	営業利益	△1,000	△900	△100	△1,393	393
全 社 ・ 消 去	営業収益	△18,000	△18,700	700	△17,752	△247
	営業利益	△1,400	△800	△600	△417	△982

# 運輸成績（業績予想） 京阪電気鉄道

	2023/3 今回発表予想	2023/3 5月発表予想	増減額	増減率	2022/3 通期実績	増減額	増減率
	百万円	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%
旅客収入	42,697	42,994	△296	△0.7	37,835	4,862	12.9
定期外	28,083	28,784	△700	△2.4	23,738	4,344	18.3
定期	14,614	14,210	404	2.8	14,096	517	3.7
	千人	千人	千人	%	千人	千人	%
旅客数	242,800	242,956	△156	△0.1	219,235	23,564	10.7
定期外	115,135	119,692	△4,557	△3.8	97,391	17,743	18.2
定期	127,665	123,264	4,401	3.6	121,843	5,821	4.8

旅客収入の推移（百万円）



# セグメント別設備投資（業績予想）

（単位：百万円）

	2023/3 今回発表予想	2023/3 5月発表予想	増減額	2022/3 通期実績	増減額
設備投資	36,900	38,800	△1,900	17,193	19,706
運輸業	11,500	14,000	△2,500	6,142	5,357
不動産業	12,100	9,500	2,600	9,473	2,626
流通業	2,500	2,700	△200	826	1,673
レジャー・サービス業	2,100	1,900	200	586	1,513
その他の事業	100	100	-	46	53
全社・消去	8,600	10,600	△2,000	118	8,481

# セグメント別EBITDA（業績予想）

（単位：百万円）

	2023/3 今回発表予想	2023/3 5月発表予想	増減額	2022/3 通期実績	増減額
E B I T D A	37,400	37,000	400	34,331	3,068
運 輸 業	15,700	15,800	△100	12,022	3,677
不 動 産 業	23,700	22,400	1,300	29,043	△5,343
流 通 業	3,500	3,600	△100	2,837	662
レジャー・サービス業	△3,400	△3,400	－	△8,181	4,781
その他の事業	△800	△700	△100	△1,211	411
全社・消去	△1,300	△700	△600	△179	△1,120